



犬におけるハウスダストアレルギー に関する研究報告



はじめに — 研究の目的および背景

犬におけるハウスダストおよび貯蔵ダニに対するアレルギーは、近年ますます一般的な問題となっており、皮膚の刺激、かゆみ、過度の引っかき行動、頻繁な足舐めなどの症状を引き起こします。加えて、外耳道の炎症が繰り返し生じることもあり、これが犬の快適性や生活の質にさらなる悪影響を及ぼします。

ダニアレルギーは「アトピー性皮膚炎」の一種であり、遺伝的に決定された体質によって引き起こされるアレルギー反応です。(アトピー性皮膚炎は環境アレルギーとも呼ばれます。)このため、免疫系がダニなどの様々な環境アレルゲンに対して過敏に反応するようになります。

環境アレルゲンの中でも、ハウスダストマイトは最も頻繁に免疫反応を引き起こす原因であり、犬における環境アレルギーの中でも最も一般的なタイプとされています。

欧州の研究によると、アトピー性(環境性)アレルギーを持つ犬の93~100%がダニに対して感作されており、アトピー性皮膚炎とダニアレルゲンとの強い関連性が示されています。





この一般的なアレルギー疾患を踏まえ、2024年には、犬におけるダニアレルギー症状の軽減に対する超音波ダニ忌避装置「Tickless Home」の有用性を評価することを目的として、10週間の臨床試験を実施しました。

本調査は、ハンガリー獣医皮膚科学会理事のアンナ・ポリナ博士の指導のもとで実施され、研究の専門的信頼性および妥当性が担保されています。

本調査には、アトピー性皮膚炎とハウスダストおよび貯蔵ダニアレルギーと診断された25頭の犬が参加しました。

本調査の目的は、本機器がアレルギー性皮膚症状の緩和に補完的治療として使用できるかどうかを確認し、かゆみ、ひっかき行動、足舐め、皮膚炎、さらに外耳道炎の再発が短期的および長期的にどの程度軽減されるかを評価することでした。

測定方法

犬の飼い主は、**PVASスケール(掻痒視覚アナログスケール)**を使用してかゆみの重症度を評価しました。

獣医師は、**CADESIスケール(犬アトピー性皮膚炎の範囲と重症度指数)**を用いてアトピー性皮膚炎の症状の重症度と広がりを評価しました。

測定は、0日目(開始時)、4週目、および10週目に実施されました。

PVASスケール:

飼い主の観察に基づいて犬の引っかき行動の強度と頻度を測定するための検証済みのツール

CADESIスケール:

あらかじめ定義された臨床基準に基づいて皮膚症状を評価するための標準化されたスコアリングシステム



結果

犬の飼い主によって評価されたPVASスケール
(かゆみおよび掻く症状)に基づいた結果:

- 92%の犬において、掻く行動の減少が見られた。
- 76%の犬において、少なくとも20%減少が見られた。

獣医師によって評価されたCADESIスケール
(アトピー性皮膚炎の重症度)に基づいた結果:

4週目以降に有意な改善が認められました

- 参加した犬において、92%に改善が見られ、皮膚の炎症および皮膚症状の軽減が示された。
- 80%の犬に少なくとも20%の改善が見られた。





その他の観察結果

PVASおよびCADESIスコアにおける改善は統計的に有意でした。症状の期間、アレルゲンの種類(季節性 vs. 季節性と非季節性の混合)、または長期的な抗アレルギー治療を受けているかどうかなどの要因と改善レベルとの間には、有意な相関は認められませんでした。

超音波ダニ忌避装置の効果は、これらのいずれの要因にも影響されなかったことから、従来の治療状況に関係なく有効であることが示唆されました。

年齢による違いも検討され、6歳未満の犬は高齢の犬に比べてPVASスコアが10ポイント多く改善しましたが、この差は統計的には有意ではありませんでした。

結論

Tickless Home は、獣医主導の臨床試験において、アレルギーを持つ犬の皮膚症状に有意な改善を示しました。

この結果は、本装置がハウスダストマイトアレルギーに苦しむ犬にとって、効果的な補助的ソリューションとなり得ることを示しています。

